

## 11 当院で検出された *Helicobacter cinaedi* 13 症例に関する検討

○吉田 勝一、氏家 綾子、高橋 茜、高橋 佳久、  
横澤 郁代、金子 心学  
前橋赤十字病院 臨床検査科部

### 【はじめに】

*Helicobacter cinaedi* (以下 *H. cinaedi*) は、グラム陰性の螺旋菌であり酸素濃度の低い環境で発育する微好気性菌である。人をはじめとし、イヌやネコ、ハムスターなど様々な動物の腸管に生息し、HIV 感染者や肝疾患など基礎疾患を有する免疫不全者の血液や便から分離例が報告されている。当院では、2010 年 10 月に血液培養から 1 例目を経験し、現在まで 13 例の *H. cinaedi* を分離した。今回、当院で検出された 13 例に関して検討し、若干の知見を得たので報告する。

### 【対象・方法】

2010 年 10 月～2015 年 3 月までに当院細菌検査室に提出された血液培養より *H. cinaedi* が検出された 13 症例を対象とした。血液培養装置は BACTEC9120、9240、FX (日本ベクトンディッキンソン: 日本 BD) を使用し血液培養の機械装填から陽性シグナルが出るまでの時間 (陽性時間) と鏡検結果、患者背景 (年齢、性別、基礎疾患、発熱、CRP、WBC、消化器症状、皮膚症状、ステロイド使用の有無、化学療法の有無) の検討を行った。

### 【結果】

*H. cinaedi* が検出された 13 例のうち男性 8 名、女性 5 名で男女比は 62 : 38、年齢は中央値 60 歳 (44～89 歳) であった。陽性時間は平均 5 日と 10 時間 (最短 2 日と 11 時間、最長 7 日と 5 時間) ですべて好気ボトルからの検出であった。13 症例全てのグラ

ム染色で長めのグラム陰性螺旋菌を認め、ディフ・クイック染色で明瞭に確認できた。基礎疾患は、血液疾患 3 例、肝疾患 2 例、腫瘍 2 例、腎疾患、脊椎空洞症、炎症性腸疾患、自己免疫疾患、慢性硬膜下血腫がそれぞれ 1 例、基礎疾患なしが 1 例であった。発熱は中央値 38.2°C (36.1～40.3°C)、CRP は中央値 6.2 mg/ml (0.18～38.6 mg/ml)、WBC は中央値 8,100/ $\mu$ l (2,800～18,500/ $\mu$ l) であった。消化器症状、皮膚症状はそれぞれ 7 例 (53.9%) で認めた。ステロイドの使用患者は 6 例 (46.2%)、化学療法を受けた患者は 4 例 (30.8%) であった。

### 【考察】

*H. cinaedi* の発育には時間を要するとされるが、今回の検討で、BACTEC システム (日本 BD) で見逃さず検出するためには 7 日間以上の培養が必要であると考えられた。分離例では、免疫不全や消化器症状、皮膚症状を伴うケースが多いとされるが、今回の検討でも同様の結果が得られた。これら症状を有する患者では、*H. cinaedi* の可能性も考慮し、血液培養の延長や、陽性シグナル時の鏡検で見逃さず確認し、正確に担当医師に報告する必要があると考えられた。高度救命救急センターを有する当院では重症患者、免疫不全者が多く *H. cinaedi* の検出増加が予想される。確実に検出するため、*H. cinaedi* の知識を深め対応していくことが必要である。

連絡先 : 027-224-4585 (内線 3211)